

第**52**期 (2020年3月期)

中間グループ報告書

2019年4月1日 ▶ 2019年9月30日



宮坂 健《惑星のカーニバル》

「中期経営計画 2021」の目標達成に向け

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。当社第52期中間期（2019年4月1日から2019年9月30日）における当社グループの業績につきましてご報告申し上げます。

当社グループは、昨年11月に策定した「中期経営計画 2021」で掲げる2022年3月期経営目標〔売上高5,000億円、営業利益130億円、ROE 8.0%以上〕の達成に向けて、電子部品販売ビジネスおよびEMS（注）ビジネスを両輪に、成長戦略を推進しております。

その初年度となる2020年3月期の当第2四半期連

結累計期間における売上高は、本年1月より当社のグループ会社となりました富士通エレクトロニクス株式会社（以下、「富士通エレクトロニクス」）の収益が期初から寄与したことなどにより2,306億30百万円となりました。また利益面では、買収効果に加えEMSビジネスを中心とした電子部品事業が堅調に推移したことなどにより、営業利益は52億39百万円、経常利益は55億46百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は35億2百万円となりました。前年同期比で売上高はほぼ倍増し、各段階利益も増益となりました。なお、



代表取締役会長
塚本 勲

売上高

2,306億30百万円
(前年同四半期比99.9%増)

営業利益

52億39百万円
(前年同四半期比38.9%増)

経常利益

55億46百万円
(前年同四半期比37.0%増)

親会社株主に帰属する
四半期純利益

35億02百万円
(前年同四半期比27.4%増)

全社一丸となって取り組む

営業利益および経常利益においては、第2四半期連結累計期間での最高益更新となりました。

当中間配当金につきましては、中期経営計画で定めた「連結配当性向25%～35%を確保しつつ、安定的な配当を実施する」の基本方針に沿って、健全な財務体質を堅持しつつ更なる飛躍のための成長投資も勘案し、期初計画通り1株につき30円とさせていただきます。

当社グループを取り巻く経営環境は、米国発の貿易諸問題の影響ならびに中国国内の景気動向、英国の欧州連合離脱問題、イラン等中東地域の地政学リスク等、予断を許さない状況が続くものと思われます。通期業績見通しにつきましては、このような先行き不透明な経営環境を慎重に見極めつつ、当第2四半期連結累計期間の順調な進捗を踏まえて、前回発表予想を据え置きました。

本年10月1日にはパイオニア株式会社の製造子会社をグループ会社化し、加賀EMS十和田株式会社を立ち上げました。同社が持つモノ作りのノウハウ、優秀な生産系人材や生産設備を当社グループに取り込むとともに、タイでは年内稼働に向けて第2工場の建設を

進めております。また、グループ会社の加賀マイクロソリューション株式会社においても福島事業所が10月に稼働するなど、国内外において、生産能力を増強、当社グループのEMS事業の競争力強化を行っております。

このように当社は「中期経営計画 2021」の初年度として、電子部品販売ビジネスおよびEMSビジネスを中心に成長戦略を加速させ、目標達成に向けて全社一丸となって取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

門 良一



EMSビジネスの成長戦略

1 加賀電子グループEMSの強み

コンビニ型EMS

お客様にとって便利で
価値ある「コンビニ型EMS」を
グローバルに展開

小額な
初期投資

多品種
少ロット対応

地産地消型
モデル

ワンストップ

製造受託に留まらず、
販売・販売後サポートまで
ワンストップで対応できる
グループ総合力

グローバル・ネットワーク

10ヶ国・16拠点に展開する
グローバル生産体制で、
顧客ニーズに
迅速柔軟に対応



KD TEC s.r.o (チェコ)



加賀マイクロソリューション(株)
(山形県)



KAGA ELECTRONICS (THAILAND)
COMPANY LIMITED (タイ)



KAGA ELECTRONICS (VIETNAM)
CO.,LTD. (ベトナム)



港加賀電子(深圳)有限公司
(中国)



TAXAN MEXICO, S.A. DE C.V.
(メキシコ)

エレクトロニクス商社を取り巻く事業環境は、半導体メーカーの再編統合やセットメーカーの海外生産シフト、製品ライフサイクルの短縮化など、変化が加速しています。こうした中、商社ビジネスの拡大をテコにして、EMSビジネスの一層の成長につなげることを狙いに、富士通エレクトロニクスをグループ会社化しました。当社のEMSビジネスの強みを生かし、富士通エレクトロニクスが持つ欧米有力顧客のEMSシフトを促進するとともに、「ボリューム」「クオリティ」「コスト」を強化、事業競争力を総合的に高めてまいります。

2 成長のための重要テーマ



生産能力の 増強

米中貿易問題長期化に伴う“中国生産移管”の動き、為替変動や人件費高騰を回避する製造業の“国内生産回帰”の動きに機動的に対応する。



ものづくり力の 強化

十和田パイオニア、福島新工場を“マザー工場”と位置付け、海外拠点との連携、全体最適化を推し進め、経営体質の強化と事業効率の向上を図る。



エンジニア リング力の強化

汎用設備に依存せず、自社内エンジニアリング力を活用して、“コンビ二型EMS”に最適コストの生産設備を自社開発。全拠点で共通の設備を使用することにより、コスト競争力を高める。

具 体 的 ア ク シ ョ ン

十和田パイオニア の買収



2019年10月1日付でパイオニア(株)の製造子会社である十和田パイオニア(株)(同日付で「加賀EMS十和田株式会社」に社名変更)をグループ会社化しました。

福島新工場 の建設



加賀マイクロソリューション(株)が生産機能強化のため建設していた新工場が10月25日に竣工し、10月28日より稼働しました。

タイ第2工場 の建設



KAGA ELECTRONICS (THAILAND) CO., LTD.は、既存顧客からの増産要望ならびに新規顧客からの受注に対応するため、タイに第2工場を建設しております。

中国 合併事業



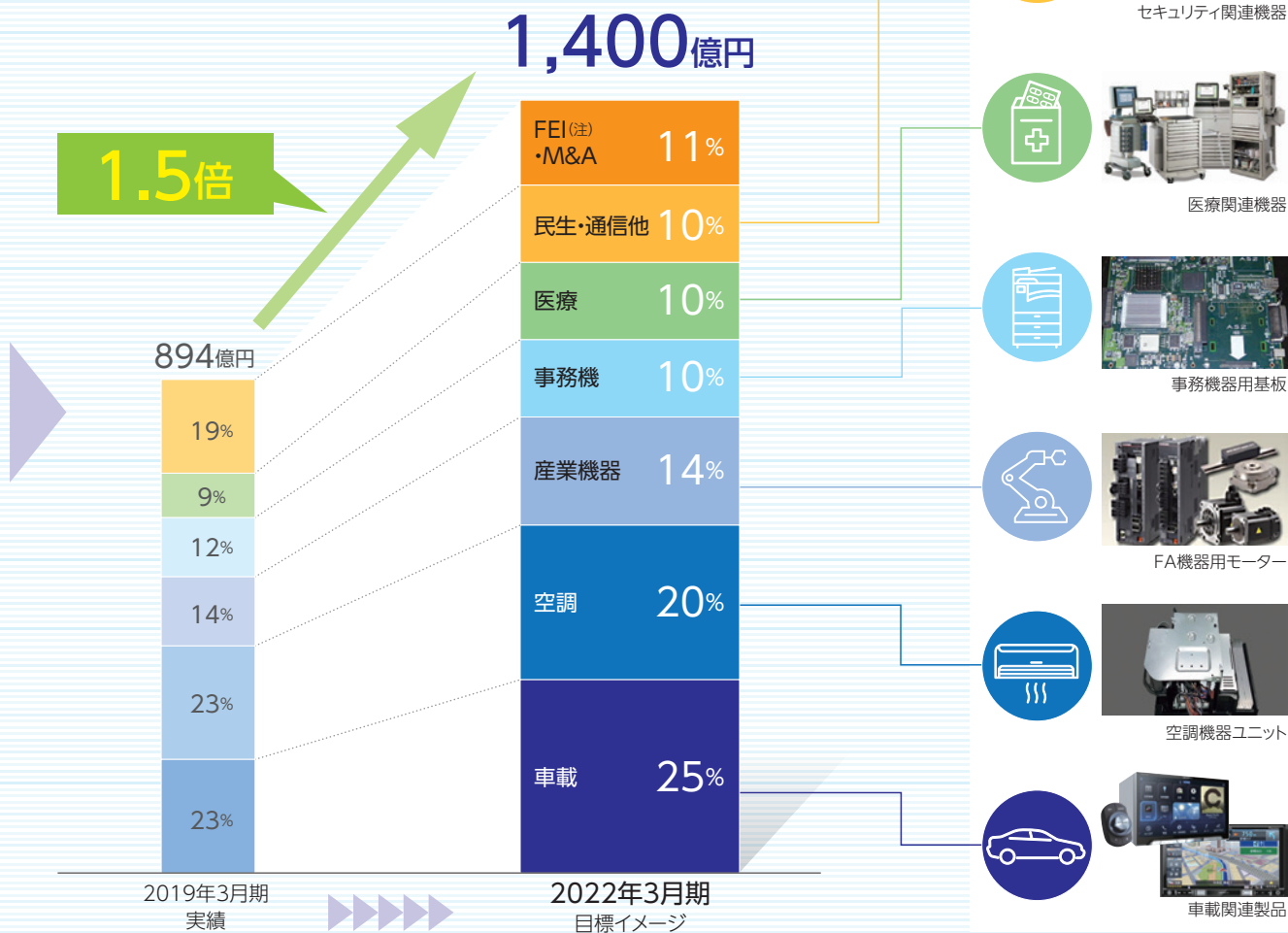
生産設備の自社開発



[HATTEN]ブランドの局所半田槽
加賀智能設備有限公司

3 EMSビジネスの成長シナリオ

「車載」「産業機械」「空調」「医療・ヘルスケア」を成長ドライバーに位置付け、2018年度比1.5倍の事業規模へと飛躍的な成長を目指します。



(注)富士通エレクトロニクスの略称。



ファイト・スピリッツ

加賀電子グループは、エレクトロニクス総合商社として、
つねにあらゆる可能性にチャレンジしてきました。

F.Y.T.の精神に基づく様々な取り組みをご紹介します。

F.Y.T. [ファイト]

Flexibility ▶ 柔軟性を持って
Young ▶ 心の若さを持って
Try ▶ 絶えず挑戦

ファイト・スピリッツ

#01

50周年記念事業で 新規ベンチャー企業に投資

当社は、2018年に創立50周年を記念した「50億円ファンド」を設立し、ユニークな技術・製品やビジネスモデルを構想・展開するベンチャー企業への出資を通じて、将来の当社グループの成長を支える新規事業の創出を図っています。その一つとして、2019年2月にスペースリンク株式会社へ出資しました。同社は宇宙技術開発のノウハウをベースに「次世代蓄電デバイス」および「高精度測位システム」の開発を手がける企業です。今回の出資は、同社が開発を進める、急速・大容量充電が可能なエネルギーデバイス「グリーンキャパシタ™」の量産開発を加速させることを目的としています。製品化が実現すれば、当社の販売ネットワークを通じて、モバイル端末やウェアラブル端末等の民生機器、ロボットやドローンなどの産業機器、そしてEV(電気自動車)など幅広い分野に活用できる製品として販売活動を展開する計画です。



グリーンキャパシタ™

ファイト・スピリッツ

#02

障がい者支援×ウェアラブル端末

当社グループ会社の富士通エレクトロニクスは、音をからで感じるユーザインタフェース「Antenna(アンテナ)」を製造・販売しています。「Antenna」は、髪の毛や襟元などに身に付けて使用するインタフェースで、約60～90dBの音を256段階の振動と光の強さに変換し伝達することで、聴覚障がい者の方でも音のリズムやパターン、大きさを感じることができます。ろう学校などの教育現場をはじめ、スポーツや文化イベントなどでの利用を期待しており、この製品の提供を通じて、聴覚障がい者と健聴者がともに楽しむ未来の実現を目指しています。



4 質の高い教育を
みんなに



ファイト・スピリッツ

#03

「統合レポート2019」を発行

統合レポートを改訂し2019年版を発行いたしました。統合レポートには決算情報や事業内容に加え、CEO・COO・CFOメッセージ、当社の強みや成長戦略、社会貢献活動・ガバナンス体制などが記載されております。当社HPにも掲載されておりますので、ぜひご一読ください。冊子をご希望の方はIR・広報室までご連絡ください。



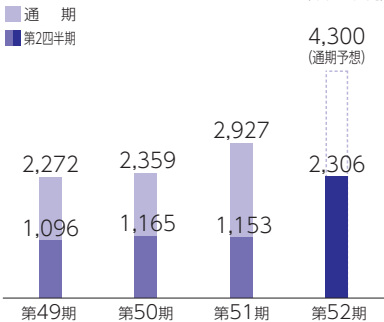
加賀電子 統合レポート

検索

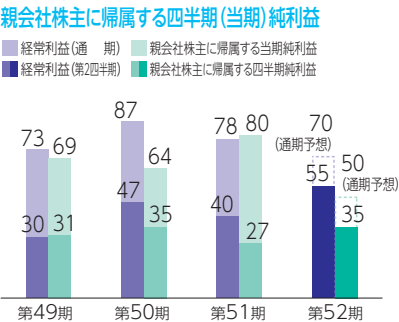
連結財務ハイライト

- 売上高は、富士通エレクトロニクスのグループ会社化が寄与し、倍増。
- 営業利益から当期純利益まで全て増益。営業利益、経常利益は最高益更新。
- 企業買収効果および堅調なEMSビジネスが下支え。通期予想に対して順調に折り返す。

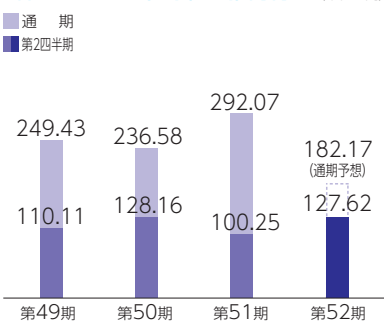
売上高



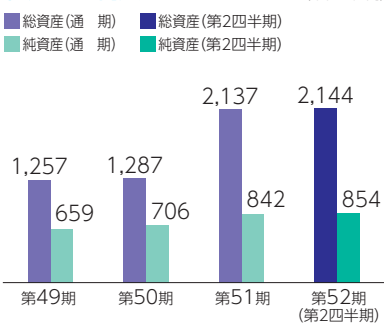
経常利益／



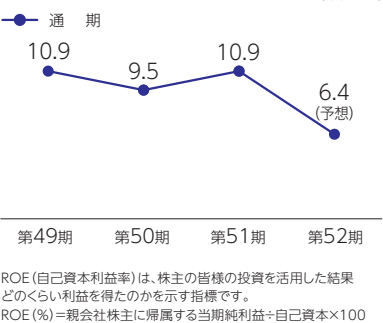
1株当たりの四半期(当期)純利益



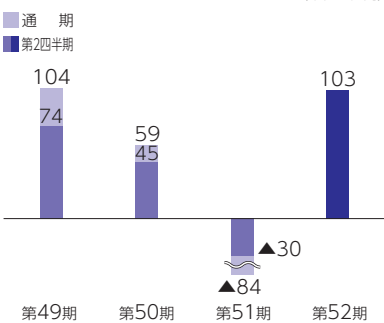
総資産／純資産



ROE

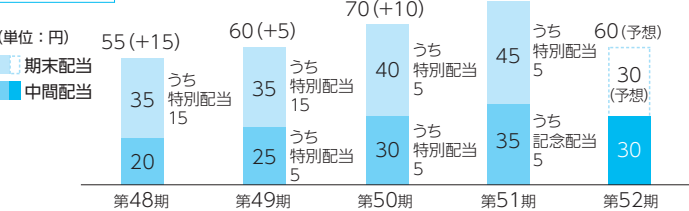


フリー・キャッシュ・フロー



科	目	第52期 通期業績予想
売	上	高
営	業	利
経	常	利
親会社株主に帰属する当期純利益		

株主還元 配当金の推移



四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期末 (2019年9月30日現在)	前期末 (2019年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	182,133	182,396
固定資産	32,341	31,364
有形固定資産	17,020	15,011
無形固定資産	1,957	2,206
投資その他の資産	13,364	14,147
資産合計	214,475	213,761
負債の部		
流動負債	120,626	121,340
固定負債	8,382	8,161
負債合計	129,008	129,501
純資産の部		
株主資本	77,539	75,272
資本金	12,133	12,133
資本剰余金	13,865	13,865
利益剰余金	53,564	51,297
自己株式	△2,024	△2,024
その他の包括利益累計額	77	1,332
非支配株主持分	7,848	7,654
純資産合計	85,466	84,259
負債純資産合計	214,475	213,761

四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期(累計) (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	前第2四半期(累計) (自2018年4月1日 至2018年9月30日)
売上高	230,630	115,383
売上原価	206,859	99,360
売上総利益	23,771	16,023
販売費及び一般管理費	18,531	12,251
営業利益	5,239	3,772
営業外収益	740	448
営業外費用	434	171
経常利益	5,546	4,049
特別利益	559	225
特別損失	803	132
税金等調整前四半期純利益	5,302	4,142
法人税、住民税及び事業税	1,135	1,069
法人税等調整額	317	314
法人税等合計	1,453	1,384
四半期純利益	3,848	2,758
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,502	2,750
非支配株主に帰属する四半期純利益	346	7

(注)記載金額単位未満の端数については、切捨ての方法で表示しております。

より詳細な財務情報は弊社HPをご覧ください。



セグメント別の業績

電子部品事業

EMSビジネスは医療機器、車載関連向けを中心に順調に推移しました。また、部品販売ビジネスはLED照明などの民生向けに加え、富士通エレクトロニクスのグループ会社化により携帯電話、車載向けなどの新たな収益が加わりました。

これらの結果、売上高は1,998億18百万円(前年同四半期比139.4%増)、セグメント利益は42億38百万円(前年同四半期比71.3%増)となりました。

情報機器事業

個人や学校・教育機関向けにパソコンおよびPC周辺機器販売が好調に推移しました。一方、商業施設向けLED設置ビジネスは大口顧客の置き換え需要が一服し、住宅向け家電販売ビジネスは販売先の納期調整の影響などにより減少しました。

これらの結果、売上高は199億68百万円(前年同四半期比5.6%減)となり、セグメント利益は6億18百万円(前年同四半期比28.5%減)となりました。

ソフトウェア事業

CG映像制作やゲームソフト開発などの受注が顧客の開発日程延伸などにより厳しい状況が続きました。

これらの結果、売上高は13億32百万円(前年同四半期比5.1%減)、セグメント利益は46百万円(前年同四半期比67.2%減)となりました。

その他事業

アミューズメント業界向けゲーム機器の販売が好調に推移しました。また、PC周辺機器および携帯電話のリサイクルビジネスは堅調に推移しましたが、ゴルフ用品販売は伸び悩みました。

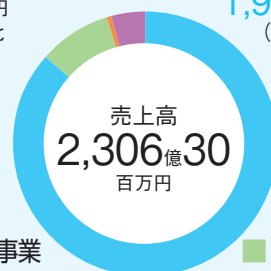
これらの結果、売上高は95億10百万円(前年同四半期比1.4%増)となり、セグメント利益は2億59百万円(前年同四半期比19.6%増)となりました。

■ その他事業

95億10百万円
(前年同四半期比
1.4%増 ▲)
構成比4.1%

■ 電子部品事業

1,998億18百万円
(前年同四半期比
139.4%増 ▲)
構成比86.6%



■ ソフトウェア事業

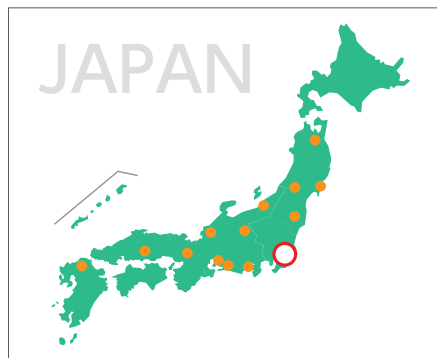
13億32百万円
(前年同四半期比
5.1%減 ▼)
構成比0.6%

■ 情報機器事業

199億68百万円
(前年同四半期比
5.6%減 ▼)
構成比8.7%

グループ・ネットワーク

主な国内拠点



○ 本 社	TEL. 03-5657-0111	○ 通信事業部	TEL. 03-5657-0120
○ 電子事業部	TEL. 03-5657-0121	○ 営業推進事業部	TEL. 03-5657-0114
● 北関東営業所	TEL. 048-667-3321	○ EMS事業部	
● 北陸営業所	TEL. 076-262-0711	● 営業一部	TEL. 03-5931-0106
● 関西営業所	TEL. 06-6105-0430	● 営業二部	TEL. 06-6105-0433
● 名古屋営業所	TEL. 052-746-6480	○ 特機事業部	
● 新横浜営業所	TEL. 045-473-7321	● 営業一部	TEL. 03-5931-0102
● 浜松営業所	TEL. 053-457-1661	● 名古屋営業課	TEL. 052-746-6481
● 福岡営業所	TEL. 092-282-1140	● 関西営業課	TEL. 06-6105-0430
● 仙台営業所	TEL. 022-722-7410	● 営業推進部	TEL. 03-5931-0102
● 新潟営業所	TEL. 0258-38-8351	● AM営業部	TEL. 03-5931-0103
● 広島営業所	TEL. 084-973-7051	○ 特販事業部	TEL. 03-5657-0123
● オートモーティブ営業一部	TEL. 03-5657-0122	○ 技術統括部	TEL. 03-5657-0130
● オートモーティブ営業二部	TEL. 052-746-6480		

主な海外拠点



主な国内関係会社

加賀テック(株)	TEL. 03-5657-0140
加賀デバイス(株)	TEL. 03-5657-0144
加賀ソルネット(株)	TEL. 03-5931-0123
(株)イー・ディーデバイス	TEL. 03-5657-0141
加賀マイクロソリューション(株)	TEL. 03-5657-0150
(株)デジタル・メディア・ラボ	TEL. 03-5931-0147
加賀スポーツ(株)	TEL. 03-5657-0148
加賀アミューズメント(株)	TEL. 03-5931-0134
加賀テクノサービス(株)	TEL. 03-5619-4111
富士通エレクトロニクス(株)	TEL. 045-473-8030
加賀EMS十和田(株)	TEL. 0176-25-1131

主な海外関係会社

● KAGA (H.K.) ELECTRONICS LIMITED
● KAGA (SINGAPORE) ELECTRONICS PTE LTD
● KAGA (KOREA) ELECTRONICS CO.,LTD.
● KAGA (TAIWAN) ELECTRONICS CO.,LTD.
● 加賀電子(上海)有限公司
● KAGA ELECTRONICS (THAILAND) COMPANY LIMITED
● KAGA ELECTRONICS (USA) INC.
● 加賀電子(大連)有限公司
● KD TEC s.r.o.
● TAXAN MEXICO, S.A. DE C.V.
● KD TEC TURKEY ELEKTRONIK SANAYI VE TICARET LIMITED SIRKETI
● KAGA ELECTRONICS INDIA PRIVATE LIMITED

会社概要/株式の状況 (2019年9月30日現在)

会社概要

設	立	1968年9月12日
資	本	金
資	本	金
資	本	金
従	業	員
数		585名 (単体：男397名・女188名)
平	均	年
齢		41.9歳 (男44.1歳・女37.1歳)
事	業	の
内	容	
容		当社は、電子機器用エレクトロニクス部品の企画、開発、製造、仕入販売、コンピュータおよび周辺機器・関連部品・付属品・ソフトウェアなどの仕入販売ならびに輸出入を主な業務とし、これに付帯する業務も営んでおります。

役員

代表取締役会長	塚	本	勲
代表取締役社長	門	良	一
専務取締役	高	橋	信 佐
専務取締役	寛		新 太 郎
常務取締役	川	村	英 治
取締役	俊	成	伴 伯
取締役	野	原	充 弘
社外取締役	三	吉	暉
社外取締役	田	村	彰
社外取締役	橋	本	法 知
常勤監査役	亀	田	和 典
常勤監査役	石	井	隆 弘
社外監査役	橘	内	進
社外監査役	佐	藤	陽 一

株式の状況

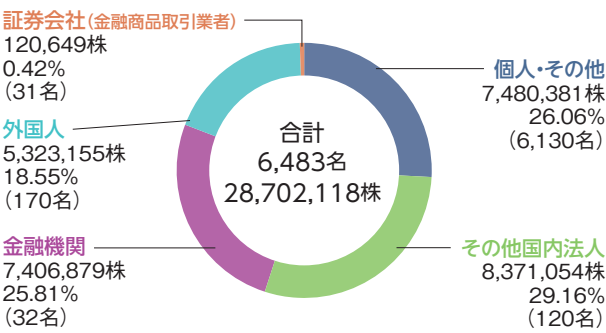
発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式総数	28,702,118株
単 元 株 式 数	100株
株 主 数	6,483名

大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
1. 株式会社三共	3,824	13.93
2. 株式会社OKOZE	1,840	6.70
3. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	1,321	4.81
4. 株式会社三菱UFJ銀行	1,212	4.42
5. 加賀電子従業員持株会	1,164	4.24
6. 株式会社みずほ銀行	950	3.46
7. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	913	3.33
8. 塚本 勲	734	2.68
9. 沖電気工業株式会社	526	1.92
10. GOVERNMENT OF NORWAY	505	1.84

(注) 1. 持株数は千株未満を切捨てて記載しております。
2. 上記のほか、自己株式が1,252千株あります。
3. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。
4. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口) および日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口) の持株数は、信託業務によるものであります。

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
株主名簿管理人 特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話料無料)
公 告 方 法	電子公告の方法により行います。 ただし、電子公告によることができない事故 その他のやむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞（東京）に掲載します。 公告掲載URL https://www.taxan.co.jp/

▶ ホームページのご案内

加賀電子

検索



▶ IRメール配信サービス

最新の適時開示等、当社IRに関する情報について、
ご登録のメールアドレスにお知らせいたします。
ぜひ、ご登録ください。



加賀電子株式会社

〒101-8629 東京都千代田区神田松永町20番地
TEL 03-5657-0111 (代) FAX 03-3254-7131 <https://www.taxan.co.jp/>
東証一部：証券コード 8154 (お問い合わせ先) IR・広報室 TEL 03-5657-0106

表紙・絵

宮坂 健 KEN MIYASAKA



惑星のカーニバル

どこかで見たかもしれない懐かしいもの、惑星や様々なものを街の中にちりばめてみた。長い旅の果てに見るかもしれない風景、汽車に乗っていきつく先には暖かな透明な海と、熱帯の美しい花々が咲き乱れる楽園があるのだろう。

プロフィール

作者略歴：1949年生まれ 安井賞展、
浅井忠記念賞展、セントラル油画大賞展、
日本青年画家展など

個 展：日本橋三越など

著 書：『地球、旅の記憶』